

みなみ社協だより

令和5年3月
第39号
五日市南学区
社会福祉協議会



令和四年度を振り返って

会長 瀬戸 孝彦

「コロナ禍を横目にしながら、色々行事を行った一年でした。残念でしたが、敬老会は、中止にしました。そんな中、南小学校の子どもたちとの交流、まごころ弁当、各サロンでの交流は休むことなく社協活動ができました。なかでもサロンでの防犯講習（佐伯警察）オレオレ詐欺についての注意、又、薬剤師の先生（海老園、豊見薬局）による正しい薬の飲み方、飲み合わせ等、とても良いお話を聞くことができました。



来年度は、コロナ感染も一段落し高齢者人口増加に対する新たな取り組みを広げていきたいと思っています。

『次に五日市南小学校の岡田校長先生より寄稿していただきました。』

「子供たちにとっての故郷」

広島市立五日市南小学校

校長 岡田 由佳

「くねなるの 梅ちるなへに
故郷に つくしつみにし
春し思ほゆ」

正岡子規の作品です。梅が散る頃になると、故郷でつくしを摘んだ春を思い出すという内容に、私自身を重ねます。ふとしたときに思い出す故郷は、懐かしさとともに、離れても自分の心を支える役割を果たしていることに気付かされます。子供たちにとっても、この五日市南学区が、生涯、心の故郷として生き続けることを願ってやみません。

本校に赴任して、一年が経とうとしています。

昔遊び、球根の植え付け、陶芸地域の歴史、伝統文化、クラブ活動など、地域の皆様の力をお借りする活動が教育課程に位置付けられ、脈々と受け継がれていることに、敬服いたします。お世話をしてくださっている皆様からは、「地域の歴史や文化の息吹を守り、次代を担う子供たちに伝えていく」という熱い思いを感じています。子供たちは、地域の方の思いを確かに受け取り、学習を深めています。地域の歴史や文化に誇りをもつとともに、地域の方の温かい心に触れています。

さて、新しい時代の教育の在り方が「令和の日本型学校教育」として、中央教育審議会の答申として示されています。その中に、「学校だけではなく地域住民等と連携・協働し、学校と地域が相互にパートナーとして、一体となって子供たちの成長を支えていくことが必要である。」と書かれています。五日市南学区では、以前から大切にされてきたことです。

新しい時代になっても、なお、このことが取り上げられることの意味を噛みしめたいと思います。

そして、子供たちの心の中に五日市南学区が故郷として根付いていくよう努めてまいります。今後ともお力添えをよろしく願っています。



南小学校児童との交流も
無事できました
ありがとうございました

コロナ禍で子ども達との交流があ
やぶまれていましたが

二年生のチューリップ球根植え
(十一月)

一年生のおかし遊び
(十二月)

五年生の敬老者への絵手紙
(九月)

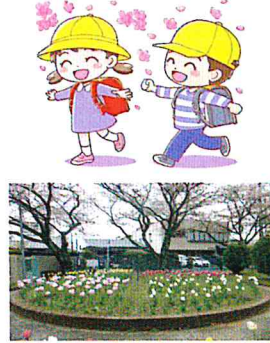
六年生の生け花講座
(一月)

皆様のお手伝いをいただき、コ
ナ対策をしながら無事楽しい交流
ができました。

敬老者への絵手紙(五年生)



芽がでて咲いてね (二年生)



僕たち私も植えたよ



あやとり (一年生)

ぼくにもできるよ



初めての竹馬ちょっと怖いけ
ど助けてもらってできた



缶ぽっくり 初めてだよ



リモートでの生け花講習 (六年生)



五日市南社会福祉事務所では
車いすの貸し出し(無料)を
しています。
ご利用ください



「助けて」と言える

地域にするために見守り活動を
進めています。

南学区社協事務所(火・木曜日)

電話 九四二一四六一

深川・前田